



タイ人実習生が作った「トム・ヤン・クン」
トム=煮る、ヤン=混ぜる、クン=海老で、海老入りスープの意味だそうです。

あじけん通信

2018 DECEMBER
VOL.132

株式会社きぼう国際外語学院
企画・編集 澁谷 健司

12月に入り、急に寒さが厳しくなってきました。この時期は、日本人の私たちでも、ふとんの中で「あと5分・・・」なかなか、寝床から出られないもの。東南アジアから来ている皆さんにとっては尚更のことでしょう。そのせいか、最近8:30の登校時間ギリギリに教室に入ってくる実習生も少なくありません。残念ながら、時には遅刻してしまう実習生もいます。しかし、時間厳守は日本の社会の基本のき。本校での登校時間は、実習先での出勤時間と同じとの考えから、遅刻者には放課後の居残り勉強を課す等、厳しく対応しています。

今年も残り僅かとなりました。巷では技能実習生を巡り様々な話題が飛び交っていますが、本校では今後も、実習生の皆さんが、日本語のコミュニケーションに、そして日本の生活習慣に一日も早く慣れて、スムーズに技能実習に入っていくように、時に厳しく、また時に優しく、実習生の皆さんをサポートしていきたいと思ひます。1年間大変お世話になりました。来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

あじけんスコープ Vol.70

～交通安全・防犯講習会～



今月は、小山警察署のご協力を得て、本校を会場として行われている交通安全・防犯講習会の様子をレポートします。

交通安全に関しては、特に実習生の皆さんが事故やトラブルに巻き込まれやすい「自転車運転」についての規則や注意事項について説明を受けます。2人乗りや2台以上の平行走行、傘差し運転等が法律違反行為であることや、自転車でも飲酒運転は罪になることを知り、皆さん驚きます。

防犯については、最近話題になることも多い技能実習生によるいわゆる資格外活動や、不法滞在等の入管法違反について、また携帯電話や銀行口座等の名義貸しや、ごみの不法投棄等、実習生の皆さんが「犯罪」との認識無しに、犯してしまいがちな犯罪に対しての注意の喚起がなされます。犯罪ではないのですが、騒音を巡る隣人とのトラブルについても、注意が呼びかけられています。

今月の実習生



今月は、講習最終日に、お世話になった先生にと、手料理を作ってくれたベトナム人実習生、写真向かって左から NGUYEN THI OANH (オアイン) さん・NGUYEN THI THANH HUYEN (フエン) さん・DAU THI NGOC QUYNH (クイン) さんの3人を紹介します。左の写真で皆さんが手にしているのが、差し入れの品。一見、「おっ、凄い、日本の料理だ!」と思っただのですが、実は・・・。

これはマソパです。かんこくのりょうりです。ざりょうりはきゅうりやにんじんやたまごやソーセージです。あしたかしゃにいくので、みんなでせんせいにたにかつくてあげたいです。ベトナムじんはがらいたべものが好きですから、かんこくのりょうりがつくれます。わたしたちのしごとは日本でそうざいをつくることですが、まだ日本のりょうりがつくれません。かならず日本りょうりをならいます。

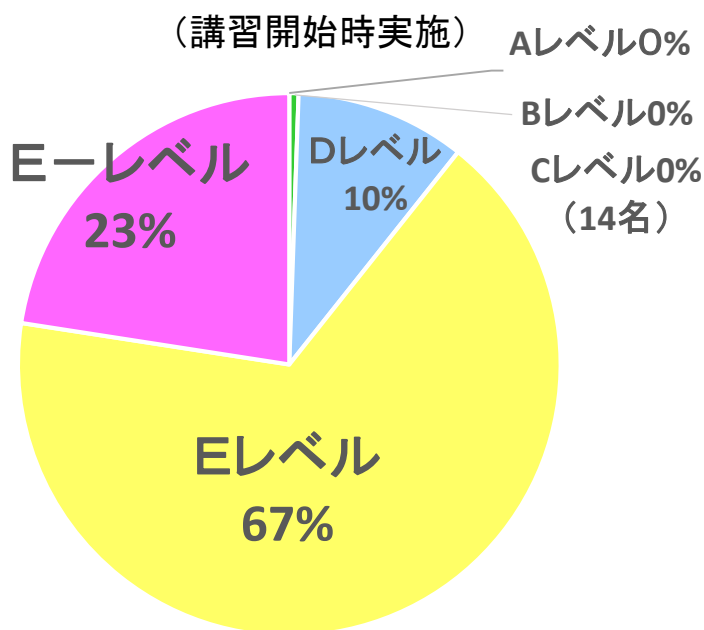
オアイン フエン クイン

あじけん流日本語授業

～2018年会話テストデータから見える日本語指導の成果と課題～

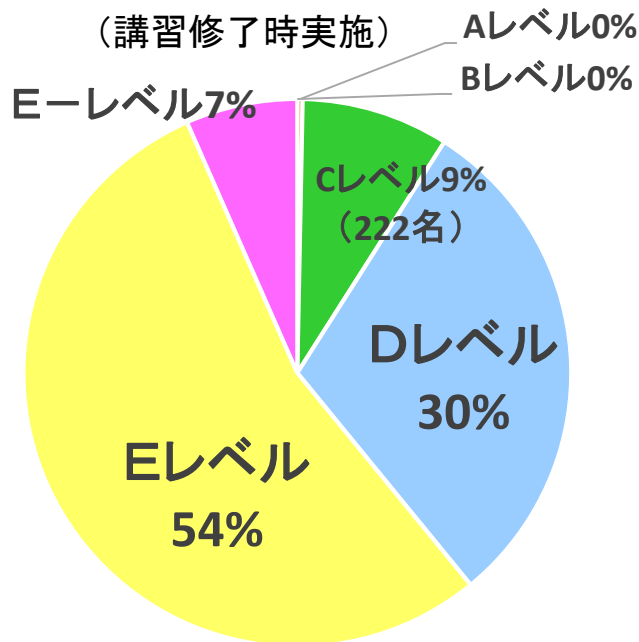
会話テストⅠ 判定結果

(講習開始時実施)



会話テストⅡ 判定結果

(講習修了時実施)



今月のあじけん流日本語指導は、今年1年間（1月～10月末まで）の本校における日本語指導の成果と課題について、会話テストのデータを基に考えていきたいと思えます。

まず、注目して頂きたい点は、会話テストⅡにおけるDレベル以上の日本語会話を身に付けた実習生の割合です。Dレベル30%、Cレベル9%で、合計39%となりました。本校の指導目標でもあり、技能実習を安全かつ円滑に行うために最低限必要と考えているのがDレベル（日常生活に必要と思われる基本語彙が定着しており、基本的な内容の指示や質問であれば、自然な速度の日本語で問い掛けられても、スムーズに応じることができる聴解力、また、必要に応じて身の回りのことが説明出来たり、「聞き返し」や「確認」表現が出来る語彙の運用力があるとされるレベル）以上の会話力なのを考えると、この39%と言う達成度は、残念ながら十分満足出来る結果とは言えません。昨年のデータ（あじけん通信2017年12月号：Vol.120参照）を見ても、この割合はほぼ同率（41%）で、Dレベルの壁を越えるのは容易ではないことが証明される結果となってしまいました。

一方、会話テストⅠでは、90%あったEレベル以下の実習生の割合：Eレベル（ゆっくり話された基本的な内容の質問であれば、何とか応じることが出来るレベル）67%、Eレベルにも満たないEー（イー・マイナス）レベル23%が、会話テストⅡでは、61%（Eレベル54%、Eーレベル7%）まで圧縮されていることから、実習生の皆さんの会話力の底上げは、着実に図られていることが分かります。

限られた講習期間内で会話力のレベルアップを達成することは、容易なことではありませんが、来年も、1人でも多くの実習生が、Dレベル以上の会話を身に付けて、安全・安心に技能実習に従事できるように、授業内容や、指導方法の改善に努めていきたいと思えます。

※なお、来日前の日本語学習期間が1年～2年半と長期間のホテル実習生と、企業単独型の特別カリキュラムで講習を行なっている実習生のデータは、基礎データに含まれておりません。

※当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます